

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月25日

【評価実施概要】

事業所番号	4270103346		
法人名	社会福祉法人 致遠会		
事業所名	グループホーム サンハイツ青山		
所在地	〒852-8036 長崎市青山町2番36号 (電話) 095-841-9398		
評価機関名	特定非営利法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島町二丁目7217島原商工会議所1F		
訪問調査日	平成19年12月14日	評価確定日	平成20年1月15日

【情報提供票より】(H19年11月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 2月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	26 人
職員数	24 人	常勤	23人, 非常勤 1人, 常勤換算 22人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り		
	4階建ての 階 ~ 2・3・4階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 330 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(11月23日現在)

利用者人数	26名	男性	6名	女性	20名
要介護1	2名	要介護2	12名		
要介護3	8名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	70歳	最高	104歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	長崎みどり病院・松尾歯科・本間皮膚科
---------	--------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人の併設として、ビルの1階を共用のデイ、2・3・4階をグループホームとし、ショートステイや配食サービスも取り組まれている。グループホームの玄関には、ひまわりの花飾りや看板を設置し、1階のフロアには気軽に立ち寄り、休息や話し合えるスペースを設け、地域の人々と交流が持てる場としての配慮が窺える。3ユニットを総括する管理者は、朝の申し送り・自治会との交流・近隣のグループホーム合同のバザー・グループホーム連絡協議会の実行委員として多方面に交流を持ち、意欲的に活動されている。音楽療法士の指導を受け、週1回音楽療法に取り組んでいる。開設当時、職員全員で話し合い、決められた理念「お年寄りの自分らしい暮らしを支援します」「地域の商店街で買い物をする等、暮らしが地域に密着するように支援します」「知識を深め、専門性を高めてケアの向上に努めます」を日々唱和して、ケア方針を意識付け、入居者本位の安全・安心に繋がる様、研鑽に努めチームワークを持って、今後も更なる向上に向けて実践されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価について、必要性を十分理解しており、指摘に納得を得るのに、職員の振り返りとして話し合う機会に繋がり、今後の取り組みとして反映されている。改善計画シートを作成され、法人の理解を得て、玄関の上の看板設置や事故を未然に防ぐ取り組みの報告書を作成して検討・分析に繋げ入居者の安全に努められている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各ユニットそれぞれに入居者と職員の関わりの振り返りとして職員が話し合い、詳細に取り組まれている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は3・4ヶ月を目途に、法人の代表・自治会長及び副会長・老人会会長・婦人部長・家族の代表・民生委員・事務局長・管理者・職員で構成されている。自治会の夏祭りの実行委員のメンバーとしても、顔なじみの関係が継続され、事業報告・避難訓練の報告・ひまわり通信の配布・入居者の生活の様子を上映し、グループホームの状況説明等双方向的な話し合いの気付きをケアの向上に活かされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	ホーム便りを3ヶ月に1回発行し、月1回お便りで入居者の状況報告(面会の少ない家族へ希望の持てる訪問の促しとなる様)等取り組まれている。家族の訪問時は、報告や意見の聞き取りに努め、金銭出納帳の確認・捺印を得られている。入居者の状況変化時には、必要に応じ電話連絡をされている。又、家族関係はユニットで違いがあり、敬老会で家族の協力により劇団を招いて、楽しい交流が行われている。今後は、家族会や家族に向けてのアンケートの取り組みを考慮されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	ホームでのバザーに取り組んでいたが自治会に加入して、自治会主催の夏祭りの実行委員として幾重の集会に参加し、入居者と共に地域の夏祭りに参加し、楽しく過ごされたり、週1回、公園清掃に参加されている。車椅子の入居者との散歩は、ゆっくり景色を眺めながら、出会う人と挨拶を交わす事の大切さを心掛けられている。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時、職員全員で話し合いの上決められた理念と方針に沿って、住み慣れた地域で入居者一人ひとりの可能性を發揮してゆったりとのんびり自分らしい生活ができるように心掛けて支援に努められている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、各ユニットの玄関入り口に掲示され朝の申し送りの時、理念と方針を唱和し、その日のケアの意識付けとして地域でその人らしく暮らし続ける日々を支えてケアに取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームでのバザーを取り組んでいたが、自治会に加入して、自治会主催の夏まつりの実行委員として幾多の集会の参加や入居者と共に地域の夏祭りに参加し楽しく過ごされている。又、週に1回、公園清掃に参加されており、車椅子の入居者との散歩は、ゆっくり景色を眺めながら出会う人と挨拶を交わす事の大切さを心掛けられている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価について、必要性を十分理解していても指摘に納得を得るのに、職員の振り返りとして話し合う機会になり今後の取り組みに反映されている。改善計画シートを作成され、法人の理解を得て、玄関の上の看板設置や事故を未然に防ぐ取り組み等、早急に手掛けられている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3・4ヶ月を目標に、法人の代表・自治会長・老人会会長・家族の代表・民生委員・事務局長・管理者・職員で構成されている。自治会の夏祭りの実行委員のメンバーとしても顔なじみの関係が継続され、事業報告・避難訓練の報告・ひまわり通信の配布・入居者の生活の様子の上映・グループホームの状況説明等、双方向的な話し合いの気付きをケアの向上に活かされている。		

グループホーム サンハイツ青山

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は直接出向き、前向きな連携の取り組みに奔走され資料収集に努めている。今年は、福祉事務所より訪問して頂き、密な連携へと繋げる事もでき、今後も市町村との継続的連携を考慮されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りは3ヶ月に1回発行し、家族へは月1回、手紙で一人ひとりの入居者の状況報告(面会の少ない家族へ希望の持てる訪問の促しとなる様)等取り組まれている。家族の訪問時、報告や意見の聞き取りに努め、金銭出納帳の確認・捺印を得られている。又、入居者の状況変化の報告は、必要に応じ電話連絡をされている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との関わりはユニットで違いがあり、敬老会で家族の協力により劇団を招いて、皆さんで楽しく過ごし家族との交流が行われている。今後は、家族会や家族に向けてのアンケートの取り組みを考慮されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者として職員が入居者と馴染みの関係を保ち頑張っている様子を把握して、入居者本位の心を大切にダメージを少なくゆとりを持って離職・異動を心掛けている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のハート(やる気)の広がり繋がる取り組みを管理者との面談で収集して、法人内外の研修に積極的な参加を促し、研修後の報告や発表の機会を確保して研鑽に努められている。又、国家試験受験の職員にはアドバイスをし、働きながらの研修に取り組まれている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入して、企画委員の理事としても研修・企画に参加されており、近隣のグループホームとのバザーを企画・予定してホーム便り等で呼びかけ地域住民との相互の親睦を図りながら、サービスの質の向上に取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に顔なじみの関係を作り、サービスを開始する時は、共用サービスやショートステイの利用で少しずつ馴染んで貰える様に努められている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日々の生活の中で共に支え合う関係を大切に、喜怒哀楽の関わりで支援に努められている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>グループホームの独自の取り組みとして、フリーの職員が日頃より、気になる入居者の思いを共にわかち合い、関わりあえる事で、有意義な時間として入居者からの学びの時として、ゆったりと取り組まれている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>月2回事例検討会議を行い、職員間の話し合い(入居者の状況に応じ医師・看護師・家族等)の意見を反映して、入居者本位の介護計画を作成されている。介護計画は、家族に見て頂き、説明の上、承認・捺印を得られている。</p>		<p>入居者の生活歴アセスメントシートのチェック体制を定期的に取り決め、職員がいつ見ても確認できるファイルの整理と入居者や家族の意見を反映した入居者本位の介護計画の作成が望まれる。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは3ヶ月を目途に、入居者の日々の心身の変化が見られた折は、事例検討や会議で話し合い、必要に応じ随時、見直しを心掛けられている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の要望に応じ柔軟な支援を気掛け、デイやショートステイの利用と交流に取り組まれている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の往診をして頂いているが、家族と入居者の希望を大切に相談を重ね、希望に沿うよう他の医療機関への受診の支援をされている。医療連携体制を受けられており、入居者の病状の変化を把握し、看護師(週3日3時間勤務体制)に連絡をして指示を受け対応されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアの経験もあり、現在も家族の希望により提携医院との連携による往診診療や、家族も泊り込みでの介護を理解し対応されている。又、「重度化した場合における対応にかかる指針」を作成され、入居者の家族に説明の上、同意を得られており、病状変化に合わせ、その都度家族・医師・看護師・管理者・担当職員との話し合いを重ねて取り組まれている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者に穏やかな声で語りかけ、食事の介助をされたり食後に和やかに会話を楽しまれている。記録等は事務所に管理されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が自分で電話をし、ピザを注文して配達の方とのやり取りを唯一の楽しみとされている方の支援や、体調により食事のペースが遅くとも、急がせることなく理解して見守り、入居者同士の思いやりのある関わりを支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニットそれぞれに献立を工夫し、おやつは手作りを取り入れられている。女性の入居者は割烹着やエプロンを身に付け、入居者のできる事(餃子作り・まぜ寿司)等を支援されている。食事中も楽しい雰囲気を入居者の食事のペースをお互い理解して、わかち合いながら、食事後の片付けを一緒に取り組まれている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回を目途に、職員の都合で決める事無く、入居者の希望を聞いて、汗をかいた後に気持ちよく過ごして頂く様、身体の清潔を保持して柔軟な対応をされている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ・新聞取り・ごみ捨て・茶碗拭き等、役割をもって取り組みの支援をされている。家族の協力により劇団を招いて賑やかに楽しんだり、訪問日は職員と一緒に歌の好きな方が集まり、リズムを打ち、歌声を合わせ楽しく音楽療法の取り組みをされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	昼食の材料の不足品を書き出し、買い物に出かけたり、入居者一人ひとりの希望に応じ、散策や外出の支援がなされている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階のエレベータホールには、ソファを設け、デイの利用者や買い物の途中に気軽に立ち寄り、休息やお喋りが出来る様配慮されている。又、鍵をかけないケアをすべての職員が理解の上、入居者の様子を常に把握して見守りの支援に努められている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、日中・夜間を想定して、全館合同で年2回(その内1回は消防署立会い)初期消火に備え、消火器の実技指導も実施し(入居者も一緒に行う訓練は緩やかに)地域の自治会長・老人会長も参加して頂き、連携に努められている。今後の課題として、スプリンクラーの設置・災害に備えた備蓄等、話し合い検討されるよう望まれる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事の摂取量の記録により、入居者の食欲状況・体重管理・咀嚼状況を把握して、おかゆや刻み食等取り組まれている。水分摂取は小さい容器で目先を変え、促しの工夫をされている。又、法人の栄養士に献立表をチェックして頂き、野菜中心の献立に努め、水分量が一日を通じて1300cc確保できるように支援されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、テレビ・ソファ・炬燵を家庭的に配置され、入居者同士ゆったりと過ごせる場所や、一人で過ごせる場所を至る所に設け、入居者一人ひとりの価値観を大切に配慮されている。窓から見える景色は地域性を感じられ、室内は明るく飾りすぎる事も無く、年数を重ねた風格のある箆笥を収納として利用され、とても落ち着いた雰囲気を整えられている。		訪問した家族にとって、離れていても心地よく安心して過ごせているのか案じられる面で、全てに於ける職員の日々の努力と配慮は、訪問日の状況から窺い知ることが出来るが、共用空間や居室の清掃や整理(出来ていないのではなく)をすべて完璧にできることの難しさを理解して頂き、すべてしてさしあげるのではなく、家族の協力も得られるよう共に取り組める支援の工夫が望まれる。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、入居者が書かれた木の表札を掲げ「我が家」として家族や入居者の希望で畳や畳ごさを敷き、ベッド・仏壇・タンス・衝立等、入居者の馴染みの物や家族の写真の持込みで、一人ひとりの居室における居心地のよさに配慮されている。		